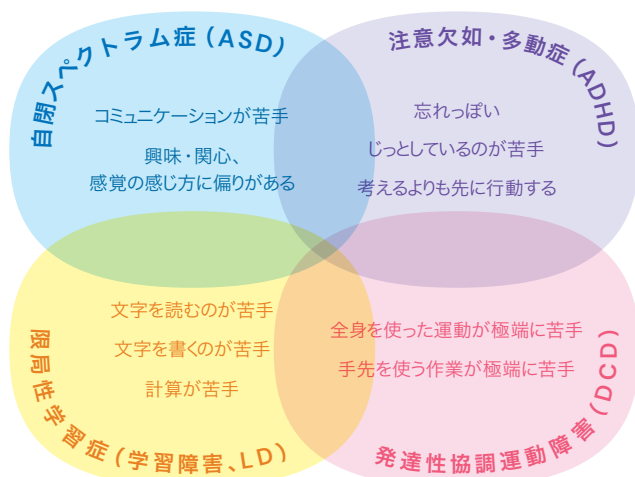


発達障害特性がある人材の就労における能力発揮支援

誰もが強みを活かして能力を
発揮できる社会

課題・背景

発達障害は、生まれつきの脳の働き方により、情報の感じ方や行動に一定の傾向が生じる状態です。その特性が周囲の環境と合わない場合には生活上の困難が生じることがある一方で、環境が整えば「強み」に変わることもあります。例えば、几帳面さ、論理的な思考や行動、高い行動力や集中力の発揮といった形で、強みを活かすことができます。発達障害がある人は人口の1割ともされていますが、国内では一般的な大卒者等と比較して20%ほど就職率が低い状況にあります。こうした状況は、就労における合理的配慮が不十分であることが要因の一つと考えられます。

取り組むアプローチ

本プロジェクトは、発達特性のある方が安定して能力を発揮できる就労環境の整備を目的に、業務内容や環境因子が心身の状態に与える影響を評価し、環境整備の指針として整理します。

日本総合研究所は、発達特性とサイバーセキュリティ等の高度IT領域のマッチングが有効だと考えています。脆弱性診断や情報収集等の業務では、自閉スペクトラム症 (ASD) や注意欠如・多動症 (ADHD) の特性が強みとなり得ます。また、同領域は人材不足が顕著で、新たな就労機会の獲得に繋がる可能性が高いため、本調査の主たる対象とします。加えて、企業のマネジメント層と当事者のコミュニケーションが、双方のパフォーマンスや心身に与える変化も評価します。これらの知見を環境整備の手法として体系化し、効果的な支援体制やツールの整備、普及・啓発を進めることで、発達特性のある方がその専門性を活かし、持続的に活躍できる社会の実現を目指します。

プロジェクト代表



精神医学の現場で、発達特性があるため社会参加に苦しむ方々と向き合ってきました。本来、その特性は強みにもなり得るものですが、周囲の理解不足から生きづらさを感じる方が多いのが現状です。本プロジェクトでは、個々に異なる支援ニーズを丁寧に紐解き、企業側の理解を促す指針を発信していきます。画一的な支援に留まらず、就労分野における体系的な支援を確立することで、「自分は自分でいい」と誰もが胸を張って活躍できる、寛容で安心できる社会を皆様と共に築いていきたいと考えています。

義村 さや香 京都大学大学院医学研究科 准教授



発達特性がある人たちの能力発揮を支援する本プロジェクトを通じ、私は得意・不得意が当たり前に受け入れられる社会を目指しています。ITイノベーションの現場で痛感したのは、脳・神経由来のユニークな特性こそが、変化の激しい現代に不可欠な価値であるということです。一部の成功例に留まらず、医学的根拠に基づき誰もが強みを活かせる環境を広げていきたい。「完璧」を求める窮屈さを手放し、互いの違いを強みに変えられる。そんな誰もが生きやすい未来を、皆様と共に形にしていきたいと考えています。

木村 智行 日本総合研究所 創発戦略センター シニアデベロップメントマネジャー

プロジェクト
ページ

